DAITO ARCHIVES NEWSLETTER Vol.12

大東文化歴史資料館だより

第12号　2012. 5 . 31

百年史編纂に向けた体制作り進む

東洋研究所教授・大東文化歴史資料館運営委員　兵頭　　徹

大東文化歴史資料館においては、古川陽二館長、荒井明夫部会長のもと、百年史編纂体制にかかわる人的配置計画につき、運営委員会で幾度となく協議を重ね、学長・理事長へ提案してまいりました。その結果、専任研究員確保の人事が先行し、東洋研究所の全面的な協力によって、(1) 東洋研究所専任研究員の百年史編纂業務への専従と、(2) 百年史編纂業務に従事する特任研究員の採用とが、同時に実現することとなり、2012年４月１日付で、東洋研究所教授兵頭徹、東洋研究所特任講師浅沼薫奈の２名が歴史資料館へ出向する運びとなりました。

これをうけて、本歴史資料館では、(1) 明年（2013年度）に迫った九十周年記念事業への対応として、九十周年ブックレット『大東文化の歩いてきた道』（仮題）の刊行に着手すること、ついで、(2) 学内兼担研究員・学外兼任研究員を募って、「創設時の指導者」研究チームや「建学の精神」研究チームなどの作業部会を整備し、百年史編纂をスムーズに実行していくために、2014年度を目途として『百年史紀要』を創刊すること、さらに、(3)『百年史』の概要について、構成や細目を検討し、「100周年記念事業推進本部」の下に設置されるであろう「百年史編集委員会」に移行できるような準備を進めることなど、百年史編纂にかかわる業務を進行させる必要があります。専任研究員にとって躊躇している余裕はありません。当面する業務を着実に推進していかなければならないと自覚しているところであります。

なお、百年史編纂体制作りは２名の専任研究員確保で終わったわけではありません。さらに、専任事務職員の配置は不可欠であり、アシスタント・スタッフは是非とも必要であります。せめて任期雇用の特別専任事務職員か、あるいは専門嘱託の配置を実現していただきたいと願っております。

大東アーカイブス 第12回 企画展

―大東文化学院創設者たちとその書―

展示期間：平成24年4月23日(月)～平成24年9月28日(金)
（開室時間　毎週月～金曜日　9：00～17：00）
展示場所：大東文化歴史資料館 展示室（板橋校舎2号館1階）

現在、大東文化歴史資料館展示室では、第12回企画展「大東文化学院創設者たちとその書」を開催中です。

漢学の学校として発足した大東文化学院と設立母体である大東文化協会の創設者たちは、主に漢詩を載せた書軸を中心としながら多くの書作品を残しました。当時の知識人たちの教養を量る大きな一要因となっていた漢学漢詩の力を語る書作品を展示紹介しています。

＊大東アーカイブスの動き＊　2011年度 歴史資料館受贈資料について

歴史資料館では、2011年度も多くの資料をご寄贈いただきました。他大学のみなさまから出版物や展示のご案内など関係諸資料をご寄贈いただく場合も多く、それらからは大学アーカイブスとしての活動の指針として刺激を受けることが多々あります。この場を借りて御礼申し上げます。

一方で、大東文化学園関係の資料をお持ちの皆様からも年間を通じてご寄贈のご連絡をいただきました。創設関係者の資料としては、大東文化学院初代副会頭（後に第４代会頭）小川平吉関係、大東文化学院開校時より教壇に立った教授川田瑞穂関係のほか、大東文化協会の実質的な創設者と言われる木下成太郎関係の資料や情報などをご提供いただきました。また、卒業生の方々からは、在学中の思い出のサークル活動の記録やその新聞記事、卒業アルバム、卒業証や写真類など大切な思い出の品々を受贈いたしました。学内関係者からも貴重な資料を寄贈いただいています。例えば、昭和13年の『文部時報』に掲載された加藤政之助総長の原稿「大東文化学院の特色と入学志願者への希望」というものや、大東卒業生で米国軍人として東京裁判（極東国際軍事裁判）で通訳として活躍した伊丹明の関係資料など、学内教職員の方々から提供いただきました。

近年のものであっても大学史として整理保存し、記録を残していく必要があります。学部学科創設廃止関係の資料や入試関係の諸資料など、お持ちの資料でこれはと思うものがあれば歴史資料館（または総務課）へご連絡ください。今後とも学内外の皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。

（歴史資料館運営委員　浅沼薫奈）

＜資料寄贈ご協力のお願い＞

大東文化歴史資料館（大東アーカイブス）では、学園に関わる資料を広く収集しています。教科書・講義ノートのほか、写真・映像、機関紙・新聞など、ご提供いただけるものや情報がありましたら、お気軽にご連絡ください。ご協力を宜しくお願いいたします。

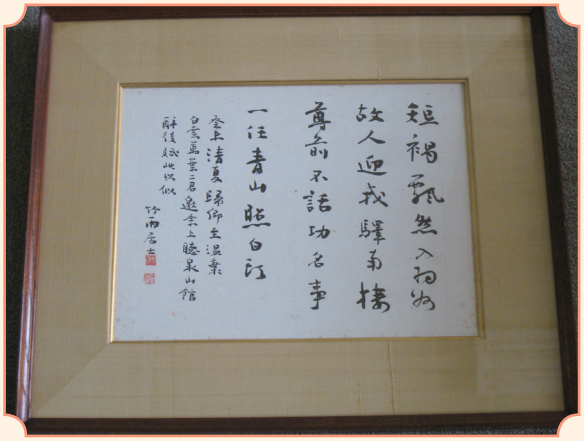
＊所蔵資料紹介＊

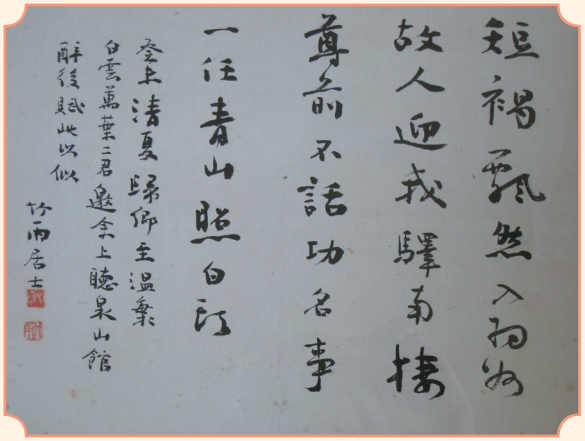
土屋竹雨「書額」

大東文化大学東洋研究所に長く所蔵されていたもので、2010年に歴史資料館へ移管されました。

土屋竹雨の「竹雨」は号で、本名は久泰。明治20年の生まれで、大正から昭和にかけて活躍した漢詩人です。戦前の大東文化学院で漢詩を講じるなど日本における漢詩人の育成に大いに貢献し、戦後新制大学への移行期には東京文政大学（昭和28年より大東文化大学）初代学長となりました。代表的な著作に『猗廬詩稿』等があります。

竹雨は漢詩人として多くの書軸作品を残していますが、この作品はその中でも額に入れられ保存状態が良い貴重な資料の一つとなっています。

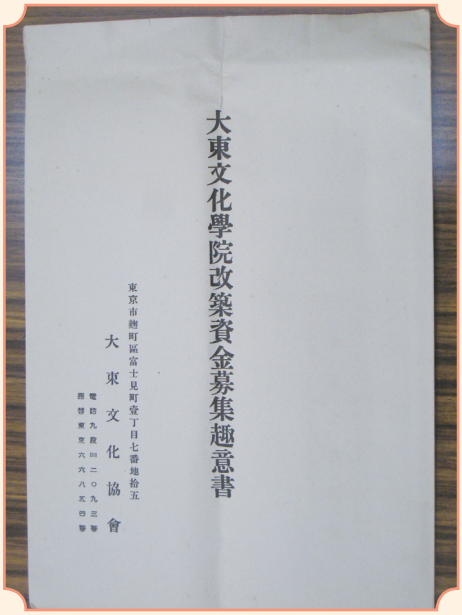




「大東文化学院改築資金募集趣意書」

大東文化協会より1936（昭和11）年11月に配布された「改築資金募集趣意書」。発起人は、大東文化協会副会頭山本悌次郎（後に第５代会頭）、大東文化学院総長加藤政之助。資金募集委員長に松平頼壽（後に第６代会頭）、同副委員長に酒井忠正（後に第７代会頭）および矢野恒太と記されています。

創設時から使用していた九段校舎が老朽していることから、新築するための資金収集を目的に出された文書です。その内容からは、新校地の位置などは「未定」となっていますが、「新校地」「大東文化学院改築資金ニ充当ス」「寄付金ハ三ヶ年以内ニ」とあることから、昭和12年から同15年まであたりを目処に資金を集め移転新築を考えていたことがわかります。その後、1941（昭和16）年２月に大東文化学院は九段校舎から池袋校舎への移転を行い、昭和19年には「大東文化学院専門学校」と名称を改めさらなる飛躍を遂げることとなります。


大東文化學院改築資金募集趣意書

東京市麹町區富士見町壹丁目七番地拾五
大東文化協會

（歴史資料館運営委員　浅沼薫奈）

自校史教育「現代の大学」開講

2006年度より開講されてきた自校史「現代の大学」（総合教育科目「自分をみつめる科目群」）も今年度2012年の開講で７年目となります。

この講義は、大東文化大学の歴史を主軸にしながら、近代史の中で果たした高等教育機関の役割や社会との関わり、また大東文化学院時代の卒業生や初期の大東文化大学卒業生など多くの多彩なゲストから講義を受けることが出来る授業となっています。さらに、講義の最終回では大東文化大学学長をゲストスピーカーとして招聘し、まさに「現代の大東文化大学」がどのように運営されどういった課題を抱えているのか、本大学の未来への指針など、率直なお話を学生たちとの質疑応答を交えながら伺います。昨年度2011年度からは太田政男学長にお願いし、今年度も太田学長にご登場いただく予定です。

【大東アーカイブス活動記録】（2011年10月～2012年３月）

10. 1　教育史学会・大学史シンポジウム参加（於：京都大学）

10. 5　全国大学史資料協議会・全国総会研究会参加（於：皇學館大学、～７日）

10. 13　特別展「大東文化大学第一高等学校創立50周年（2012年）プレ展示『登山家　加藤保男と大東文化大学第一高等学校』展」公開

10. 18　高津勉氏（本科同窓生）より資料受贈

10. 26　田中稔氏（本科同窓生）より資料受贈
高津勉氏（本科同窓生）より資料受贈

10. 29　大学史セミナー参加（於：岩手大学）

11. 10　全国大学史資料協議会幹事会・研究会参加（於：明治大学）

12. 15　歴史資料館事務局打合せ

12. 21　ニューズレター「大東文化歴史資料館だより」vol.11（11月30日号）配布発送

１. 17　田中寛氏（日本語学科教員）より資料受贈

２. 20　高津勉氏（本科卒業生）より資料受贈

３. 12　大東文化医学技術専門学校閉鎖にともなう資料移管確認

３. 16　歴史資料館運営委員会
政池芳博氏（総務課職員）より資料受贈
吉田篤志氏（中国学科教員）より資料受贈

大東文化歴史資料館だより
第12号
DAITO ARCHIVES NEWSLETTER Vol.12

発　　行：2012年５月31日
編集発行：大東文化歴史資料館
〒175-0083 東京都板橋区徳丸 2-19-10
大東文化大学徳丸研究棟
TEL 03（5399）7646 / FAX 03（5399）7647
URL：http://www.daito.ac.jp/information/about/archives/index.html